

宗教名	カトリック（ローマカトリック）
信仰者人口	13億2千人 日本国内42万人（令和5年度版宗教年間より）
信仰者が多い国・地域	南北アメリカ大陸、ヨーロッパ
文化社会的特徴	
1. 食文化のタブー	<p>禁忌な食品など日常的な制限は無い。</p> <p>20歳以上から60歳未満の信者には、復活祭（イースター）の46日前の水曜日（灰の水曜日）、復活祭直前の金曜日（聖金曜日）は、以下の内容の食生活の制限がある。</p> <p>大齋：3食の中で十分な食事を1回のみとし、他の2回はわずかな食事が許される。</p> <p>小齋：鳥獣の肉を使った料理を食べない。</p> <p>※復活祭は、移動祝日である。3月21日以降の最初の暦上の満月を過ぎたあとの最初の日曜日が復活祭にあたる。なお、カトリック内では「イースター」よりも「復活祭」と呼称することが多い。（日本カトリック司教協議会常任司教委員会, 2022）</p>
2. 妊娠・出産に関する価値観・行動・風習	<p>結婚は互いに愛と忠実を尽くし、互いに自分を相手に与え合いながら、生まれてくる子どもを信仰のうちに育てる夫婦共同体としての使命をよりよく果たすために教会において、同意を交わし神への誓約、指輪の交換や署名などを行う（※キリスト者の7つの秘跡）。性交渉は、夫婦間のみのもので行われる。片方が信者でない二人の結婚は許されているが、離婚は、原則として認められていない。</p> <p>胎児は受精した瞬間から人間としての尊厳を持っているとしている。このため、人工妊娠中絶は、教義に反するとされている。しかし、性暴力や人身売買などで妊娠した場合や母体を守る中絶を容認することが、しばしば教会内でも議論されている。これに対し、従来は中絶した者や医療従事者を破門していたが、現在は「赦しの秘跡」の対象とされ中絶を行うことを自動的な破門の対象とはしていない。</p> <p>また同様の理由で受精卵を用いた研究も容認していない。ただし、ヒトES細胞の研究・利用の代案として、ヒト体性幹細胞の研究・利用を支持している。</p> <p>代理母出産（代理懐胎）も「女性と子どもの尊厳を深刻なしかたで侵害」として容認していない。（日本カトリック司教協議会常任司教委員会, 2022）,（教皇庁教理省, 2024）</p>
3. 育児に関する価値観・行動・風習	<p>乳児期、幼児期に洗礼（信者になる儀式）を受ける幼児洗礼がある。幼児洗礼の場合、本人に受洗の意思があるか不明確であり、本人が熟考できる年齢まで待つべきであるという議論は以前からある。これに対して、神の祝福は誰にでも与えられるものなので、洗礼を遅らせることでそれを妨げてはいけなく、洗礼後に宗教的教育を家庭内で受けることを前提に受洗するとしている。</p> <p>幼児洗礼を受けた子どもが7歳以上になると「理性を働かせるに至った子ども」とされ、初めて聖体拝領を受ける儀式である「初聖体」が行われる。また、小学校高学年から中学生ごろに「堅信」があり、「神の子としての身分を堅め、強める」儀式とされる。「初聖体」、「堅信」とともに「教会学校」などでの準備教育を受ける必要がある。「初聖体」、「堅信」は、一家の慶事として祝われる（キリスト者の7つの秘跡に含まれる）。</p> <p>（教理聖省, 1980）,（日本カトリック司教協議会常任司教委員会, 2022）</p>
4. 高齢者に関する価値観・行動・風習	<p>後述する「病者」への慈善は、伝統的に強調されていたが、高齢者に特に焦点をあてた祈願日は、COVID-19の世界的流行下で制定された。この祈願日は、「祖父母と高齢者のための世界祈願日」とされ、7月第4日曜日（日本では敬老の日の前日の日曜日）に定められている。日本国内においては、敬老の日にあわせてこれとは別に以前から「長寿の集いのミサ」が行われてきた。</p> <p>高齢者に関する価値観をローマ教皇は、「聖書の中には、人生のどの年代においても神が近くにいてくださるという確信と、そしてまた老年期や苦しいときに強まる見捨てられることへの恐怖との、両方が見いだせる」と述べている。また全世界的な視点から高齢者と若者世代の対立を危惧し、「多くの高齢者がしばしば切り捨ての文化の犠牲となり、いかに孤独を味わっている」としている。</p> <p>（カトリック中央協議会, 2024）</p>

5. 受療および病人のケアに関する価値観・行動・風習	<p>自ら傷病者となった場合、信者は「病気を試練として受け止め、それに耐える」ことを願うとされている。輸血をはじめとして治療法の禁忌はない。しかし、安楽死は認められていない。</p> <p>一方、「病者」への慈善は、新約聖書内の「善いサマリア人」（ルカによる福音書10章25-37）やマタイによる福音書25章40節にある「この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にしたのである」などから信者が進んで行うべきものとして重要視されてきた。</p> <p>（日本カトリック司教協議会常任司教委員会, 2022）,（教皇庁教理省, 2024）</p>
6. 終末期・葬儀に関する価値観・風習	<p>大手術を受ける前や容体が悪いなどに受ける「病者の塗油の秘跡」がある。これは、病床を神父（司教、司祭）が訪問して行われるものである。「ご利益を求めて何度も受けるものではない」とされている。教会によっては、既述の「長寿の集いのミサ」中に75歳以上の参加者に対して毎年行われるところもある。</p> <p>終末期の尊厳死は教理に沿っているが、死は権利ではないとされ、安楽死、自殺ほう助は認められていない。</p> <p>日本の場合は、通夜、葬儀のミサがそれぞれ行われる。原則として、信者が所属する教会で行われる。カトリックの葬儀に精通した葬儀社があり、教会に問い合わせなどが必要。香典ではなく「御花料」と呼称する。参列者は、数珠の持参は不要で、仏式と同様の服装が良い。</p> <p>（日本カトリック司教協議会常任司教委員会, 2022）,（カトリック麹町聖イグナチオ教会, 2013）,（教皇庁教理省, 2024）</p>
7. 服装に関する価値観・行動・風習	<p>聖職者でない一般の信者（信徒）には、特に無い。教義として「清貧」を尊いものとすることから、華美なものを避ける価値観がある。</p> <p>聖職者である神父は、キャソックやローマンカラーの立て襟の祭服を普段から着用している。女性聖職者であるシスターは、修道会ごとの制服にベールを着用している。</p> <p>（日本カトリック司教協議会常任司教委員会, 2022）</p>
8. その他の文化・風習	<p>カトリック教会の布教では、それぞれの文化圏での自文化の文脈の中でカトリック教会の普遍性を理解するインカルチュレーションを行ってきた（岡光, 2014）。これらの例としては、メキシコの死者の日やヨーロッパ、ブラジルなどの謝肉祭（カーニバル）などがある。一方、日本の教会暦にはこれらの祭事は定められていないが、七五三祝福式など独自の行事が存在する。</p> <p>ロザリオという日々の祈りの際に用いる数珠状の用具がある。これは祈りの回数を数えるための道具であり、偶像崇拜の否定の考え方から「御守り」のようなそれ自体にご利益があると考える物とは性格の違う聖具である。ロザリオは繰り返し祈りをささげながら、イエス・キリストの生涯と、聖母としてキリストとともに歩んだ母親のマリアの信仰を黙想する祈りの道具である。ロザリオという名前はバラの冠を意味し、ロザリオの玉は棘を表し、それは祈りによってバラの花に変わると子どもの頃から教わる。</p> <p>カソリックという呼称が歴史的に使われてきた経緯があるが、日本におけるカトリック教会のとりまとめ組織であるカトリック中央協議会では、「カトリック」と呼称し、カソリックは用いていない。</p> <p>※7つの秘跡について：</p> <p>カトリック信者は一生のあらゆる節目節目に、上記で述べた「秘跡」を通じて教会と共に歩んでいる。ここに再掲しておく。</p> <p>①洗礼：聖霊の働きによって、受洗者の罪がすべて許され、神の子として新たに生まれる秘跡。</p> <p>②ゆるし：神の愛に立ち返り回心する（告解）ことによって与えられる“神との和解”（罪のゆるし）の恵みの秘跡。</p> <p>③ご聖体：イエスの死と復活の記念を行うミサ聖祭の中で、パンとぶどう酒がイエスの御からだの御血になるという信仰にもとづいて、それを霊的な糧として分かち合う。7歳ごろに初聖体を受ける。</p> <p>④堅信：洗礼の恵みをより豊かに生きるために、洗礼を受けた人々に聖霊の賜物を与え、信仰を堅固たるものにする秘跡。</p> <p>⑤叙階：貞潔・清貧・従順の3つの誓願を立てて生涯を奉献する男子修道者にあたえられる秘跡。</p> <p>⑥結婚：互いに愛と忠実を尽くし、互いに自分を相手に与え合いながら、生まれてくる子どもを信仰のうちに育てる夫婦共同体としての使命をよりよく果たす。同意を交わし神への誓約。指輪の交換や署名など。</p> <p>⑦病者の塗油：臨終の床にある病人のゆるし／病の癒しの塗油</p>

9. 出典	<p>1)文化庁:宗教年間令和5年版 Retrieved from: chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/hakusho_nenjihokokusho/shukyo_nenkan/pdf/r05nenkan.pdf. (検索日:2024年9月22日)</p> <p>2)日本聖書協会(2018):聖書 聖書協会共同訳,日本聖書協会,東京</p> <p>3)日本カトリック司教協議会 常任司教委員会監訳(2022):カトリック教会のカテキズム要約,カトリック中央協議会(第10刷),東京</p> <p>4)ドン・ボスコ社編(2022):祈りの手帳(三訂版第4刷),ドン・ボスコ社,東京</p> <p>5)教理聖省(1980)/前川登(1980):幼児洗礼に関する訓令,カトリック中央協議会,東京</p> <p>6)カトリック中央協議会:第4回「祖父母と高齢者のための世界祈願日」教皇メッセージ 2024年7月28日 Retrieved from:https://www.cbcj.catholic.jp/2024/07/24/30399/. (検索日:2024年9月22日)</p> <p>7)カトリック中央協議会:教皇庁教理省宣言 無限の尊厳—人間の尊厳について Dichiarazione Dignitas infinita circa la dignità umana, Retrieved from:https://www.cbcj.catholic.jp/2024/08/05/30436/. (検索日:2024年9月22日)</p> <p>8)カトリック麹町聖イグナチオ教会:信仰のしおり, Retrieved from:chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.ignatius.gr.jp/downloads/guidebook.pdf. (検索日:2024年9月22日)</p> <p>9)岡光信子(2014):カトリック教会のインカルチュレーションに関する一考察,中央大学政策文化総合年報,77-99</p>
-------	---

担当者:井上正隆(兵庫医科大学)
承認日:2025年3月10日